

2025年度愛知県血液検査研究班5月研究会

～アンケート結果～

作成日 R7年 6月20日

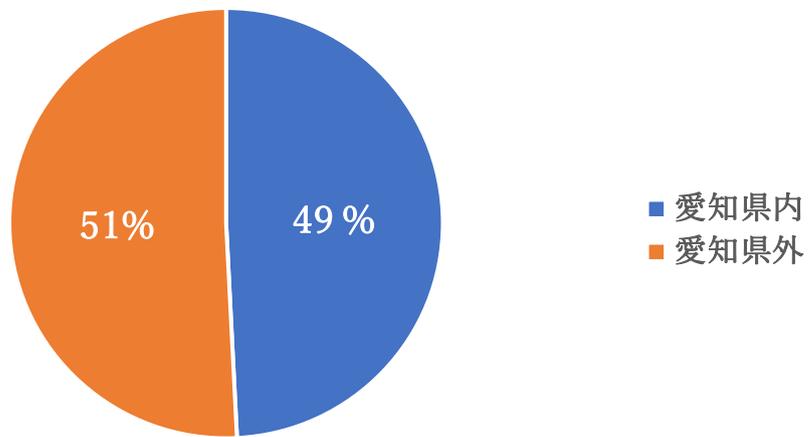
テーマ：症例検討会 3症例

オンデマンド配信期間：2025年5月17日（土）～5月31日（土）

申し込み総数：477名 アンケート回収：303名

【参加者の概要】

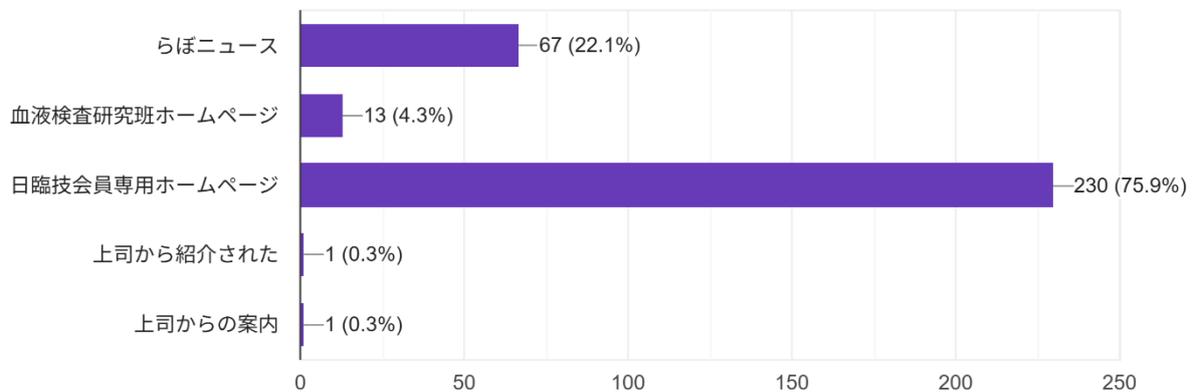
① 所属技師会



② 研究会の情報について

研究会はどこで知りましたか？

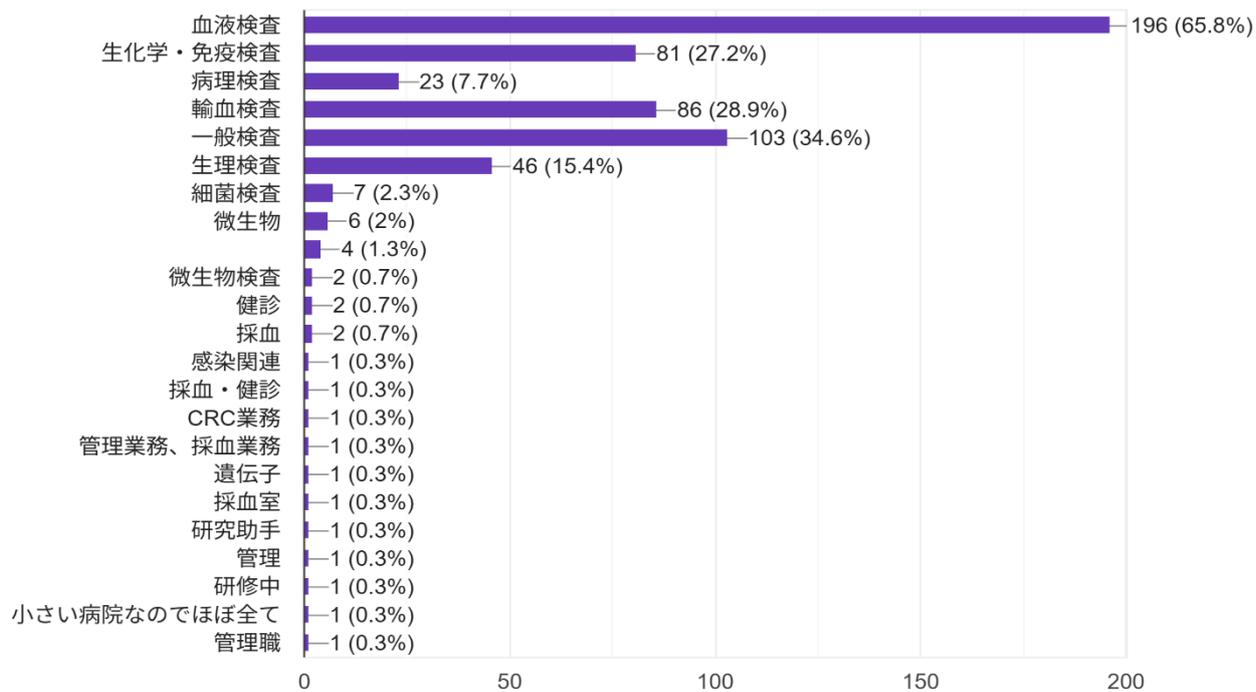
303件の回答



③ 日常担当している部署について

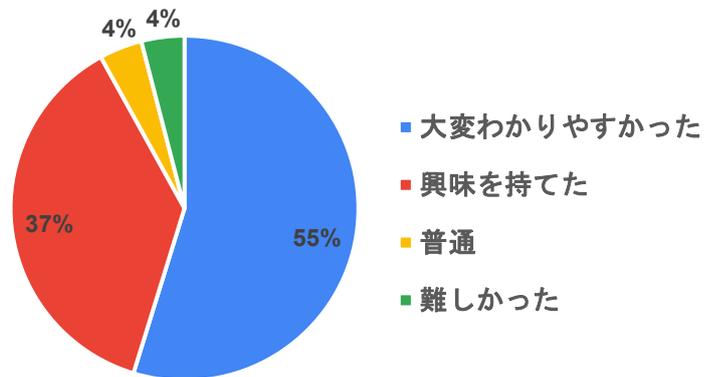
日常検査で担当している部署はどちらですか？

298 件の回答

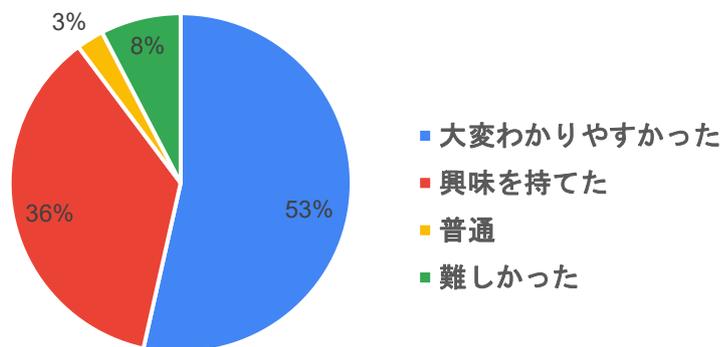


【講演について】

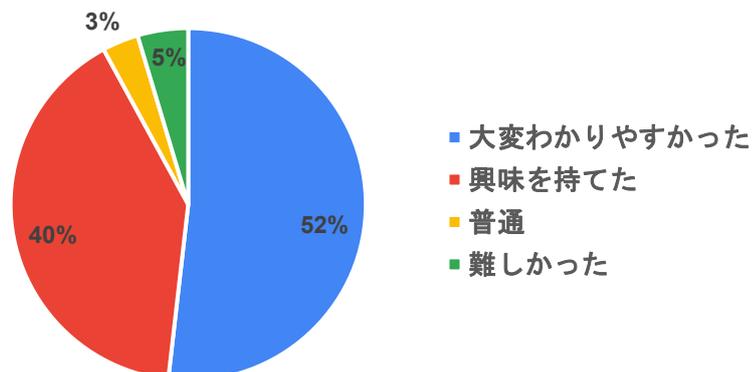
症例 1 の講演内容についていかがでしたか？



症例 2 の講演内容についていかがでしたか？



症例 3 の講演内容についていかがでしたか？



【設問の回答】

問題 1. 次の設問で正しいものを一つ選択してください

1. 後天性赤芽球癆の初期治療としては、原因の除去や1か月間の経過観察が重要である。
2. 赤芽球癆ではリンパ球系の異常増殖を伴うことが多いため、M/E比は正常範囲内である。
3. パルボウイルス B19 は CD8 陽性 T 細胞に感染して赤芽球癆を引き起こす。
4. Diamond-Blackfan 貧血では、造血幹細胞の障害によりすべての血球系統に異常がみられる。
5. 造血幹細胞移植は、Diamond-Blackfan 貧血の第一選択治療である。

問題 2. 次の設問で 選択肢の中から誤りがあるものを2つ選んで下さい。

1. 低分葉好中球は骨髄異形成腫瘍（MDS）に対して特異性が高い。
2. 芽球比率は骨髄芽球と単芽球の比率を足してカウントされる。
3. 骨髄異形成/骨髄増殖性腫瘍（MDS/MPN）は血球形態異常や無効造血と1系統以上の血球増加が認められる。
4. FCM 検査において、通常単球は CD13, CD33 が陽性で CD14, CD64, CD68 も陽性となる。
5. 慢性骨髄単球性白血病（CMML）では骨髄中の CD14+/CD16-単球が増加する。

問題 3. 次の設問で 選択肢の中から誤りがあるものを1つ選んで下さい。

1. 鉄欠乏性貧血は小球性低色素性貧血である。
2. DIC 診断基準には、FDP ($\mu\text{g/mL}$) 値が含まれる。
3. 白赤芽球症とは、末梢血に有核赤血球とハウエルジョリー小体が出現している状態を指す。
4. 細胞表面マーカー検査において、CD45 ゲーティングにより、対象を造血細胞に絞ることが出来る。
5. スメア標本の引き終わりや辺縁部に、大型の細胞が集まりやすい。

【5月研究会講演内容に対するご意見、ご感想】

- ・大変勉強になりました。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・実際に標本の見方や鑑別なども講演してくださり、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・アンケートおよび e-learning への回答が必要とのことですが、アンケートは当フォームですが、e-learning の回答はどこですればよろしいでしょうか？
- ・珍しい疾患ばかりで、難しかったです。勉強になりました。
- ・大変面白い内容でした。もう少し視聴期限が長いとうれしいです。
- ・基礎的な症例の再確認ができてよかったです。
- ・事前に症例の動画を配信していただけたので、答え合わせが出来て良かったです。ありがとうございました。
- ・県外参加をさせていただきありがとうございました。担当の検査内容ではありませんが参考になりました。
- ・研究班研究会の内容として相応しいと感じた。
- ・また参加したいです！お願いします。
- ・事前資料では、難しいかなと少し不安でしたが、分かりやすい解説で非常に勉強になりました。
- ・今回の講演は事前に症例を見て考察する時間が与えられてよかった。
- ・どの症例も遭遇したことがなかった為、大変貴重な経験になりました。
- ・動画を用いた症例とたいへん理解しやすい解説で有益な講演でした。
- ・「WHO5 版の単球の分画の異常」とは何だろうと思っていました。解説くださり、論文の紹介もしてくださり勉強になりました。
- ・末梢血や骨髓標本の見方や、疾患の診断基準について分かりやすく解説していただき、勉強になりました。今後の業務に活かしていきたいと思います。
- ・普段マルクを実施してないのですが大変勉強になりました。異常な細胞に目が行きがちですが、細胞自体がないことも異常であるということを忘れないようにしたいと思います。
- ・講演会を通じて、普段の業務では見逃しがちだった点や、あまり意識できていなかった事柄について改めて学び直すことができました。今回得た気づきを、今後の業務にしっかりと活かしていきたいと考えます。
- ・日常の気を付けなければならないことを分かりやすく教えて頂きありがとうございました、県外からですがまた参加させていただきたいです。
- ・今回、他県でありながらも研修会に参加させていただいたことに御礼申し上げます。愛知県のレベルの高い内容に大変勉強になりました。症例提示をは

じめ詳細な症例解説、WHO 分類 5th の内容まで含めて深く学ぶことができました。

- ・赤芽球癆、CMML、骨髓癌腫症それぞれの疾患を再度学ぶことができました。
- ・全ての症例解説がスライドがみやすく理解しやすかったです。とても参考になり知識のブラッシュアップができました。
- ・他県にまで公開していただき、大変ありがとうございます。
- ・今回は生涯教育の点数のために視聴しましたが、以前10年以上の血液検査の経験がありとても興味深く視聴できました。忘れていたことや、遺伝子領域などはとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・当院では血液内科はありますが常勤医師がいない為血液疾患の患者さんはMDSや治療後の経過観察の方が多いです。なかなか今回の動画のような血液疾患を経験する機会が少ないためとても良い勉強になりました。見るポイントなどわかりやすかったです。
- ・診断するまでの順序が丁寧にまとまっており大変勉強になりました。
- ・事前に症例を見て考えることができたのが良かったです。血液検査所見と骨髓像を併せて症例を考えることができ勉強になりました。視聴後のレポートの問題を解くのにもう一度動画で復習したので、知識がより身についたと感じました。このような選択問題があると自分の理解度を確かめることができありがたいです。最後に、他県からの参加でしたが、貴重な勉強会にWebで参加させていただけるのがとてもありがたいです。ありがとうございました。
- ・正常が無いことも異常所見であることを学びました。
- ・標本の細胞の解説や症例の解説が大変分かりやすかった。1症例の解説時間も丁度良いと思います。
- ・とてもわかりやすく勉強になる講演でした。血液像や血液データを見たときにこれだと思った疾患があればそれについてばかり考えてしまうのですが、視野を広げて考えられるように研鑽していきたいと思いました。
- ・事前資料が欲しいです
- ・何回も視聴して学ぶことができ、ありがたいです。県外からも参加でき感謝しています。
- ・普段は生理検査に所属しているので分野は違いますが、とてもわかりやすい公演でした。
- ・症例2の中で環状鉄芽球は核周囲1/3に5個以上と表現されていましたが、現在は核周囲に5個以上だと認識していました。
- ・私は臨床検査技師1年目でまだまだ知識の足りていない状態で今回の研究会

に参加したのですが、大学の講義で聞いたことのある病名とその詳しい内容について新たに知ることができました。今後も研究会に積極的に参加し、知見を広めていきたいと思えます。

- ・日常業務で、血液疾患に関する症例の経験が少ないため、考え方や検査の進め方などとても勉強になりました。
- ・大変分かりやすく勉強になりました。特に WHO 第 5 版における CMML の診断基準が曖昧だったので理解できて良かったです。
- ・実際の検査結果から、末梢血液像、骨髓像、診断、疾患までの流れを分かりやすく説明して頂き、通常業務に活かせる内容のためとても参考になりました。
- ・最近血液像担当になってわからないことだらけだったのでとても勉強になりました。
- ・初めて愛知県の勉強会に参加させていただきました。非常に濃い内容の勉強会で、大変勉強になりました。スライドの写真もとてもきれいでみやすかったです。
- ・異常細胞(芽球)の有無に囚われがちとなってしまう中で、本来あるものが無い(異常)を改めて考えさせて頂いた機会となりました。確かに 500 カウントを実施すれば、いずれその異常に気付くことにはなるが、初見の時点でそこに気付くかどうかで、鏡検の質も変わってくると思う。3 症例とも、とても勉強になりました。
- ・自分が勉強不足だなと感じる程に知らなかったことが多く、とても勉強になった。
- ・大変わかりやすい内容でした。普段血液はルーチンでやっておらず、病理がメインですが、血液学形態学は病理に通じる部分が多く、今回講義を受けさせていただきました。3 症例目は組織との対比もあり、助かりました。ギムザ標本をみることは多いので、血液疾患を理解しておくのと、より鏡検しやすくなるかと思えます。
- ・MDS/MPN についてあまり理解していなかったので、今回の症例で CMML の症例を聞いて勉強になりました。
- ・どの症例も鏡検時のポイントがわかりやすく大変勉強になりました。赤血球恒数による貧血の分類や DIC の診断基準などの説明も丁寧で、改めて自分の中で整理ができたので日々の業務に活かしたいと思えます。
- ・普段、骨髓鏡検を行わないのと末梢血も教えて貰う機会が無かったので、難しいと感じたが、ONLINE 参加出来て良かった。
- ・血液検査の進め方とポイントや、診断のプロセスなど分かりやすく丁寧に講演して頂き大変勉強になりました。有難うございました。

- ・認定血液検査技師を目指す上で、血液像(または骨髓像)および検査データから、疾患を推測する力をつけたいため、考え方が大変役に立ちました。また、オンデマンド配信という点もとても有意義だと感じます。貴重な公演をありがとうございます。
- ・遺伝子や細胞、疾患の特徴がまとまっておりとても勉強になりました。私の知識が足りなかった部分や間違っていた事、新しい事がありました。
- ・あまり普段遭遇しない症例が多く、非常に勉強になった。検査データから診断がつくまでの流れが理解しやすく、症例への理解を深めることができた。
- ・自施設では遭遇したことの無い症例でとても勉強になりました。また、どの症例も知らないことがあり、まだまだ知識不足を実感したため勉強していきたいと思いました。
- ・バーチャルスライドで症例提示されていたのが、とてもよかったです
- ・一症例を詳しく解説していただいたので分かりやすかった
- ・骨髓像はみないので理解が追いつきませんが、末梢血の観察のコツなど参考になりました
- ・病理で悪性リンパ腫以外の血液疾患を取り扱う機会は少ないため、自分には難解に感じる部分もあった。剖検例では骨髓を取り扱うことがあるため、今回得た知見を病態解明等に役立てたい。
- ・最近血液検査を覚え始めたので、難しいと感じる内容もありましたが、忘れていた知識も思い出すことができ、とても学ぶことの多い講義でした。

【今後の研究会、講演会等を取り組んで欲しい内容】

- ・末梢血の特殊染色
- ・M2、M3の症例の勉強会をしてほしいです。
- ・M5、M6、M7について詳しく教えていただきたいです。
- ・WHO5版について、説明してほしい。
- ・形態スライドのフラッシュ問題と解説
- ・一般的な末梢血液像に出てくる異常
- ・骨髓像の鏡検方法について講演していただきたいです。
- ・私の施設では骨髓像やフローサイトに触れる機会が少ないので、今回のような症例提示を交えた血液像の見方や解説が聞きたいです。
- ・造血幹細胞移植患者さんの血液像観察のポイントなど
- ・凝固検査について日常遭遇するピットフォール等お願いしたいです。
- ・ヘムサイト導入の実例報告
- ・症例検討・認定血液検査技師対策
- ・凝固検査やクロスミキシングについて
- ・骨髓標本カウントのコツ等をご教示いただけたらと思います。
- ・典型的でない細胞のフォト問題。
- ・悪性リンパ腫など
- ・凝固検査の基礎～異常値がみられたときの対応について
- ・今回のような1つの症例の血液像や血液検査結果を見て、答え合わせと解説といった研修会をまた、していただきたい。
- ・日当直で再検すべき血液検査の値とかも知りたいです。
- ・鏡検で異常細胞が出現した時の対応方法(結果登録方法と臨床への報告まで) ・骨髓標本の評価
- ・血球貪食症候群(HPS)は、小児から大人まで幅広く遭遇する疾患で、発見時の診療科と専門科が違うことが多いと感じる。その上で、検査技師としてどのように担当医と進めていくかなど症例をご掲示頂きたい。
- ・スキッタグラムの見方やエラーメッセージに対する対処方法など実務でよく遭遇する症例の解説など希望します。
- ・今後もWEB研修会の開催と、県外からの参加承認をお願いいたします。
- ・オンラインでの開催はご苦勞が多いと思いますが、こういった機会があって日々勉強が出来て良かったです。ありがとうございました
- ・血小板凝集能の見方、考え方、疾患、ピットフォールなどあれば聴きたいです